

～【小さな幸せに気づくレッスン】～

被害者の生徒が家族と交わした最後の言葉は何だったのだろうか。「行ってきます。」「行ってらっしゃい。」だろうか。または「今日は部活で遅くなるかも。」「気をつけてね。」だろうか。ひょっとしたら会話にならず、「行ってらっしゃい。」「……。」だったかもしれない、と考えました。

先週、愛知県で凄惨な事件が起きました。あろうことか中学生のしかも同級生による殺人事件です。今週号はこのことを書かないわけにはいかないと考えました。教師として、親として、人間として思うことがたくさんありました。きっと保護者の皆様も同様だと思います。



その後、ニュースを通じて、被害者の生徒が会話に割り込んできた、生徒会立会演説会で応援演説を頼まれた、今朝のニュースでは「いじめらしきもの」があったとか、現在、犯行動機の解明が急がれています。しかし、これはいうまでもないことですが、どんな理由があるにせよ、人が人を殺してよい理由などあるわけがありません。

人生これから、という時に突然人生の幕を下ろされた被害者の無念さ、家族の驚き、悲しみの深さは言語を絶するものがあると思います。同時に加害者の家族も同様に深い悲しみに打ちひしがれていらっしやることでしょう。これから先、私達には想像すらできない苦難の日々が待ち受けているはずです。

こうした事件を防ぐにはどうすべきか。外国のように凶器を発見するために警備員を配置し、毎朝入校者全員を金属探知機で調べたり、荷物検査したりするしかないのでしょうか。しかしこれは現実的ではありません。日本でこんなことをやったら人権上大きな問題となります。それではどうしたらよいのでしょうか。

生きているのですから、きついこと、辛いこと、腹立たしいこと、悲しいことがあるのは当たり前です。大切なことはそれをずっと自分の胸の中だけで悩み、考えるのではなく、言葉にして表現することだと思えます。

自分の悩みは誰に相談しても解決策はない、と思う人がいるかもしれません。違うのです。大切なことは誰かに相談して解決策を覚えてもらうのではなく、自分の悩みを言葉にして表現することそれ自体なのです。言葉にすることで、自分の抱える課題が明確になります。同時に、その課題にまわりついていて、相手を傷つけない、懲らしめると

か、自らの命を絶つとか、そんなどす黒い、邪悪で危険なイメージがきれいに取り払われます。

自分には相談する相手がいない、と思う人がいるかもしれませんが。そんな時は自分の思いをノートに文章として綴ってみてください。そしてそれを次の日の朝(これが大切です。夜には深刻に感じても、朝になると大したことなかったという心配事が結構多いものです。)もう一度、読み直し、必要があったら書き直してください。そしてその手紙を、自分がこの世で一番信頼する人に見せてください。(その人が、お父さん、お母さんであってほしいですね。また担任の先生だったらすばらしいことですね。)

人は生きていくうえでいろいろな悩み事につづかります。しかし本人は気づかないだけで、実はその悩み事の答えも既に自分の中にあると思います。その答えを自分以外の人から聞きたいために、人は相談するのだと思います。

悩み事に出会ったら、必ず言葉や文字にすること。これだけで随分心が軽くなるものです。まず心を軽くして、そして解決策を考えていきましょう。

ある本に、「小さな幸せに気づくレッスン」が書いてありました。簡単なことです。夜、布団に入ったら「私は今日幸せでした。なぜならば()だったから。」の()に文章を入れてください。この作文を毎晩3つ考える習慣をつけていくと、楽しいこと、うれしいことがたくさん起きるそうです。皆さん、是非試してください。言葉は人を創るのです。

～【挨拶運動が盛り上がってきました】～

生徒会中心に「あいさつ運動」が盛んになってきました。執行部、生活委員会、これにサッカー部の生徒の協力を得て、現在鹿南中は「立ち止まってあいさつ運動」を実施しています。



【あいさつボランティアの皆さん、ありがとうございます。】

今朝は2年生の女子3人が自ら進んで挨拶運動に参加してくれました。「おはようございます。立ち止まってあいさつをお願いします。」と登校してくる生徒に声をかけてくれました。こうした思いを持った生徒がどんどん増えてくれば、文字通り「麗気烈風」の鹿南中に変身できます。全員での頑張りを期待しています。